土佐沖で採集されたペリカンウナギモドキ(新称), *Eurypharynx pelecanoides*(VAILLANT)

今　井　貞　彦

Occurrence of the Gulper-Eel, *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT) off Tosa, Japan.

Sadahiko IMAI

Abstract

On July 10, 1961, on the test working of the new deep-sea trawling device of Kagoshima maru, the training ship attached to Kagoshima University, a specimen of the Gulper-Eel was caught by the midwater larval net with 4,000 m-long cable. The station was off Tosa, 85 miles south of Ashizuri Misaki, at 31°22′ N., 133°09′ E.

The present specimen is a female, 475 mm long with the caudal torn off at tip. Although the specimen is considerably damaged, it should probably be identified with *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT), as it agrees in the main characteristics of the species given by BERTIN (1934). The measurements and counts of the specimen are tabulated (Table 1).

The present specimen may likely represent the first record of the Gulper-Eel from adjacent water of Japan, and its northernmost occurence of western Pacific.

ま　え　が　き

1961年6月鹿児島大学水産学部練習船かごしま丸の鹿児島より尾道への廻航の途次を利用して，土佐沖でその1万メートルトロールウインチの試験を行なった．そのとき中層稚魚トロールにより多数の小型の中層性魚類とともに，著しく破損しているが *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT) と同定されるものが1個体得られたのでここに報告することとする．

採集を行なったのは高知県足摺岬の南方約85浬，31°22′N，133°09′E にあたり現場の深さは 5,200m，1961年6月10日午後2時20分より5時まで，口径 4m×1m の楕円形の網口を持つ中層ネットに 4,000m の曳行索を用いて斜曳きを行なった．捲上時の鋼索の傾角よりみて中層ネットは最深3,500m内外に達したものと思われる．

この採集によって得られた中層性魚類は14種111個体で，大多数は全長50～60mm以下のヨコエソ科 Gonostomatidae に属するもの（主として *Gonostoma gracile*、*Cyclothone spp.*）であった．これについては稿を改めて報告することとする．

標　本　の　記　載

ここに報告する標本は細長い尾部の先端が切断されているが全長 475mm に達する雌魚である．破損がいちじるしく，皮膚はまったく剝離し前半の一部を残すのみで，内臓諸器

官も皮膚とともに脱落分離しているが，その大部分は同時に採集されている．頭骨、両顎，懸垂骨などは完備しており、鰓、胸鰭などを含む部分の特徴をもたしかめることができた．

体ははなはだ細長く筋肉節数95以上，尾部は残存する部分のみでも軀幹長の1.4倍でいちじるしく側扁し，且つ先端は次第に細くなる．背鰭は軀幹部の中央よりやや前方第12筋節に始まり臀鰭起点（第36筋節）より前方の部分に38鰭条をそなえる．背鰭及び臀鰭の尾端切断部までの鰭条数はそれぞれ162及び108である．眼は小さく頭の前端にあり，口裂は著じるしく大きく口角後端は第17筋節に達する．上顎は舌顎骨と方骨とよりなる懸垂骨とこれに沿う細い稈状の上顎骨により構成され，下顎骨は上顎とほぼ等長で細稈状をなす．両顎骨はきわめて多数の小粒状の細歯をおびる．鰓孔は卵円形で腹側に左右近接して開き鰓蓋諸骨がなくて閉じることができないので鰓条は露出している．鰓弧は5個で最後の1個の後方にも鰓裂をそなえる．胸鰭は鰓孔の直後にあってきわめて小さいが14鰭条を有する．体側の皮膚は濃黒色を呈しやわらかくて小さなしわに富む．著じるしく拡張することのできる口腔の側壁の皮膚は多少褐色をおびいっそう多くのしわを持つ．

眼より後方に向って体側を縦走する側線上には，密接して斜列をなす3～5個の乳頭状突起群と単一の乳頭状突起とが交互にならび，鰓孔の上方までに合計約50個を数える．頭部感覚管の下眼枝は上顎の縁辺に沿う2本とその上方を後上方に向う1本とよりなり，いずれも単一の小乳頭状突起をおびる．その他の感覚管系は損傷のため明きらかでない．背鰭基底の両側に沿い深い一縦溝が走り，その内側は乳白色を呈する．

計測し得る各部分の測定値をBERTIN(1934)に従って第1表にかかげる．なおBERTINによるSelebes海産の全長600mm標本の測定値を比較のため併せ示してある．

Table 1. Measurements and counts of *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT) obtained off Tosa, Japan, with the data of the specimen taken from Selebes Sea after BERTIN (1934).

Station:	31°22′ N. 133°09′ E. Off Tosa, Japan	6°37′ N. 122°24′ E. Selebes Sea
Date:	VI 10, 1961	VII 2, 1929
Length of wire:	4,000 m	3,000 m
Total length:	475 + mm	600 mm
Depth of body at the base of pectoral:	—	32
Depth of body at the origin of anal:	23.5	19.5
Breadth of head:	16.0	16.5
Diameter of orbit:	3.8	4.0
Interocular distance:	12.0	9.5
Length of snout:	4.5	4.5
Length of hyomandibular:	43	41
Length of quadrate:	72	77
Length of upper jaw:	117	120
Length of gill opening:	8.5	5
Length of pectoral:	3.8	—
Predorsal length:	94	87
Preanal length:	202	206
Number of myotome:	95+	—
Number of dorsal fin-ray:	162+	192
Number of dorsal fin-ray preceding anal:	38	32
Number of anal fin-ray:	108+	135
Number of pectoral fin-ray:	14	—

考　　察

この標本は BERTIN が主としてDana 号の採集標本によって明きらかにしている *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT) と，その一般的な形態，頭骨，両顎，鰓弧，内臓諸器官，感覚管系の構造，胸鰭の位置などにみられる諸特徴においてほぼ一致している．又，BERTIN は西南太平洋で採集された全長 268～600 mm のもの 7 個体，大西洋で採集された全長 77～535 mm のもの 39 個体の計測を行なっているが，この標本を同じ標準によって計測して得られた測定値は第 1 表に示すように Selebes 海の Sulu 島近海で採集された全長 600mm の大型の標本と大差がない．

BERTIN によれば本種の脊椎骨は個体により 102～112 個を数えるが，この標本の生時の全長が約 600mm に達するものとすれば，残存している尾端の附近の脊椎骨のそれぞれの長さからみてその総数は 110 個内外と推定され，同時にその部分を加えると鰭条数も背鰭 190 個内外，臀鰭 130 個内外と考えてよいのではないかと思われる．BERTIN のあげている鰭条数は背鰭 155～196，臀鰭 118～147 でその変異の幅がひろくこの標本の推定鰭条数は充分にそのなかに含まれるとみてよかろう．

以上のように標本が不完全のために充分な比較ができないうらみがあるがここにはこの標本を上記のように *Eurypharynx pelecanoides* (VAILLANT) と同定することとした．

本種は大西洋では 10°S から 47°N に至る広い海域で採集され，太平洋周辺では Selebes 海，Banda 海、New Guinea 北方、Tasman 海など，インド洋では Sumatra 西方で採集されており全長 60 cm に達する．主として 2,000 m 以上の暖海中層に分布しているものとされ，日本近海からは始めて報告されるものと思われるが，本種がわが国の近海で採集されることはすでに松原 (1955) により予測されている．

文　　献

BERTIN, M. L. (1934) : Les poissons Apodes appartenant au sous-ordre des Lyoméres. *The Carlsberg Foundation's Oceanographical Expedition round the World 1928–30 and Previous Dana-Expeditions. Dana-Report*, **1** (3), 1–56.

BRAUER, A. (1906) : Die Tiefsee-Fische. 1., Systematischer Teil. *Wiss. Ergeb. Deutsch. Tiefsee-Exped. "Valdivia" 1898–99*, **15**, 1–432.

松原喜代松 (1955)：“魚類の形態と検索”, **1**, 1–789 (石崎書店，東京)

ZUGMAYER, E. (1911) : Poissons provenant des campagnes du yacht Princesse-Alice (1901–10). *Rés. Camp. Sci. Monaco*, **35**, 1–159.